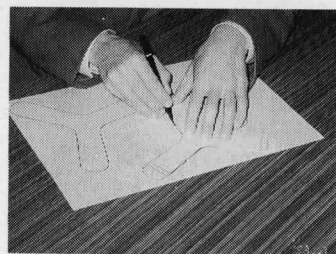
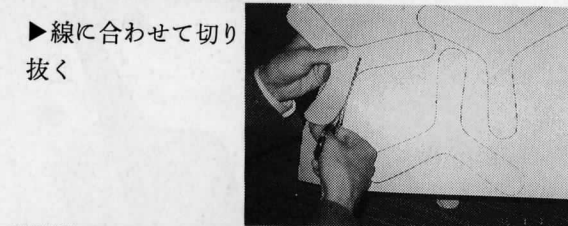


戻ってくる 紙ブーメラン 作り

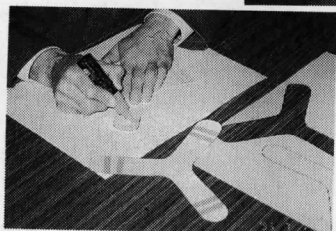
西山 豊



▶大きさに合わせて線を引く



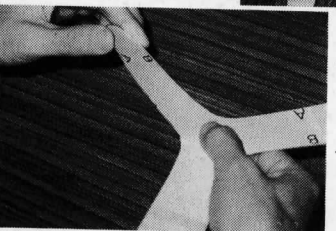
▶線に合わせて切り抜く



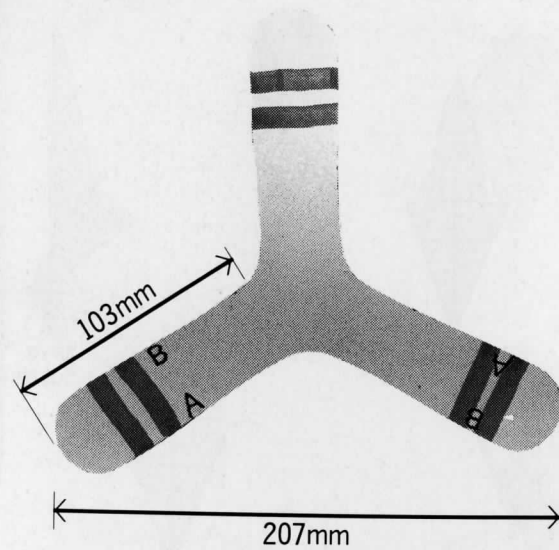
▶裏表がわかるようにマジックなどで、目印を書いておく



▶机の上におき、まっすぐに伸ばす



▶切り取ったブーメランの翼にひねりを入れる



作り方

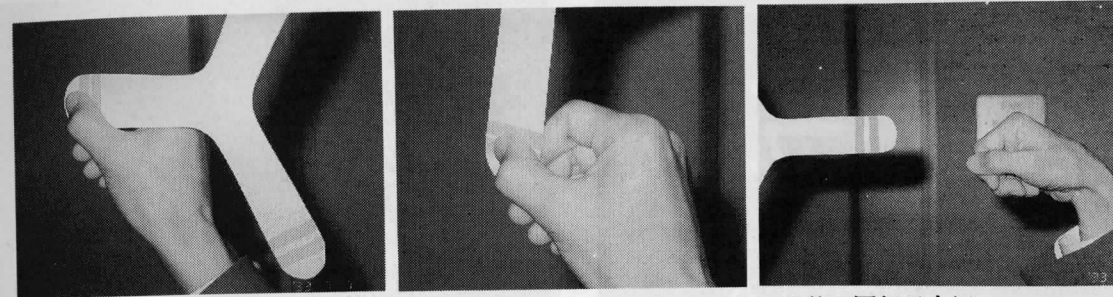
ブーメランは、オーストラリアの原住民が狩猟用に使ったと言われていいます。くの字形をしていて、投げると手もとに戻ってきます。木のブーメランは投げると危ないので、ここでは紙で作る室内用のものについて説明しましょう。

厚手の画用紙を用意します。文房具店では白表紙と言えわかります。その上に実体図を鉛筆で描きます。翼の数は3枚ですが、これでも戻ります。つぎに、はさみで形を切り抜きます。そして、表と裏を区別するために、表にマジックかマーカーで印をつけます。

机の上におき、まっすぐに伸ばします。そして、右手でブーメランの中央を持ち、左手で翼にひねりを入れます（A側を上、B側を下になるようにします）。ほかの翼も同じようにひねります。

飛ばし方

表を内側にして、翼の端を親指と人さし指でつまみます。回転を与えることが大切です



▲投げ方は、表を親指の方に、翼を後ろ側にねかせます。

▲回転させるように投げる

▲手首の回転が大切

飛ばすときは、手首の回転をよくきかすこと（スピンを与えること）と、ブーメランを立てて投げることが重要です。フリスビーのように横にして投げると戻ってきません。

立てたまま回転を与えて投げると、およそ4～5mの円を描いて戻ってきます。飛んでいる時間は、およそ1～2秒です。投げる力は小学1年生ぐらいで十分です。うまく戻ってくるようにするには少し練習が必要です。

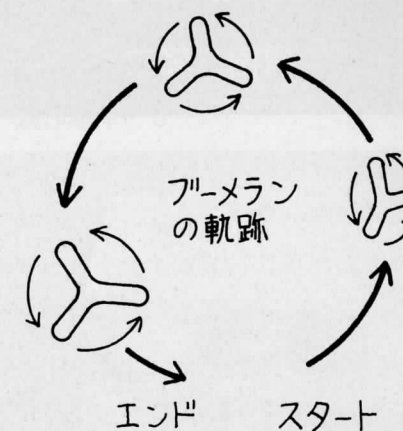
戻ってきたブーメランは、両手を開いて重ねるようにキャッチします。けっして握りしめないようにします。紙が折れてしまいますから。

いままでの説明は、右利きの人のものですが、左利きの人は、作り方や飛ばし方は鏡のように正反対にすればできます。

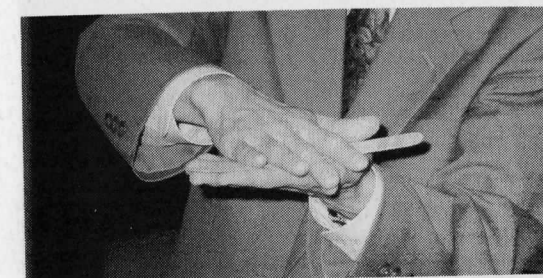
どうして戻ってくるの？

ブーメランは、回転しながら飛びます。風に向かっていて翼は風を速く切ります。遠ざかる翼は風を遅く切ります。この2つの翼の違いが、ブーメランの進む向きを変えさせ、そして円を描いて戻ってくるようにさせるのです。もっと詳しいことは、高校や大学で学ぶことができます。

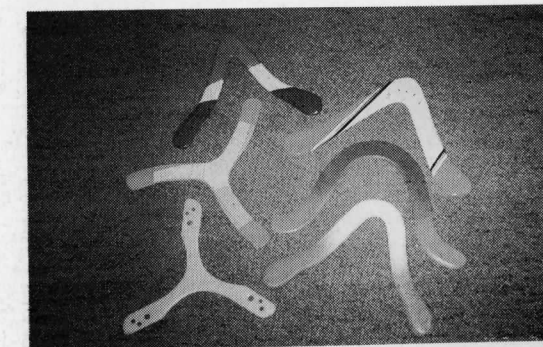
（大阪経済大学助教授）



（上から見た図）



▲受けとめ方は手で重ねるように



▲いろいろな木製のブーメラン